

分散会 報告書

大阪私立高等学校進路指導研究会

(1) グループ

報告書担当校 大阪商業大学高等学校

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 3 F 301
参加校	開明高等学校・大阪商業大学高等学校・プール学院高等学校・常翔学園高等学校 箕面学園高等学校・関西大学高等部高等学校・天王寺学館高等学校 大阪商業大学堺高等学校・八洲学園高等学校 以上 9 校 9 名参加		
時 程	15:20～16:50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		

■自己紹介兼各高の課題とするとところ、聞きたいこと

1. 総合型の受験者が増えている。探究の授業を活用して受験できる準備をしている。
上位の国公立大に取り組ませるための取り組みを伺いたい。
2. 総合型同様に増えている。探究の授業が受験に直結しているわけではない。学校としてあまり積極的には勧めているわけではない。公募制推薦の今年度の変化を注視している。
3. 事務的な面を共有したい。例えば名刺をどう扱っているか。グーグルキーを使用している。ハンディを今年から使用検討している。求人票、指定校推薦の読み込みを試してみたい。専門学校から試しに行っていく予定。
4. 大部分の生徒が内部進学。年内に出願が終わる。合格内定後3ヶ月ほどの自由な時間をどう扱うか迷っている。
5. 生徒と触れ合う期間が少ないため、効果的な進路指導のヒントを得たい。
6. 多忙な業務の中、どう処理していいのかわかっている。進路指導部の業務の効率化。
7. 通信制高等学校。進学よりかは就職、未定で卒業するパターンが多い。不登校などの経験をした生徒が多いため。配慮を要する生徒が進学を希望した場合のサポートを知りたい。
8. 総合型選抜の武器を作るための探究の時間のあり方について。

①総合型選抜にチャレンジするための探究の時間の指導について

- ・各生徒が大学などのオープンキャンパスに参加し、担任が指導にあたる。
- ・全生徒が卒業論文を作成。ピンキリの出来であるがそれを利用して総合型にチャレンジすることもある。出来不出来の評価が難しい
- ・ボランティア活動などの募集、声掛けを積極的に行う。他校から転学してくる場合が多いので、何か1歩を踏み出せる助力を。
- ・特に何かをしているわけではない。書く力が弱いことを強化しているが、担任の指導力に差が出てくる。課外活動などを利用できれば。専願制なのでそこに時間がとられるよりは、学力指導のほうがメリットを感じる

- ・最低履修単位数で実施しているため、なかなか時間をとれるものではない。
- ・指導する教員数が足りていない現状がある。チャレンジする大学レベルが高いほど指導にも時間がかかる。
- ・総合型は手間がかかる受験制度。指定校、総合型の時期が被るので大変。一般で受験し、合格できるような生徒しか実際合格してこない。
- ・総合型に向き不向きの生徒の選別について。どうしているのか。共通テストが試験項目にある場合は学力がネックになる。合格率が30%ほど。なかなか上手くいかない。担任の力量、国語の先生に頼る場合等システム化されていない。
- ・探究を担当する教員が別にいる。探究を1コマ多く設定するコースもある。系列の大学にも協力してもらっている。
- ・いろんな教科から探究をしてくれる教員を募集し行う。チームティーチング（2人体制）、ここ数年である程度体制が整ってきた。（理科、数学はやや消極的）管理職も探究を教える。持ちコマ内に探究の単位を入れている。平均16コマの中に。
- ・探究は担任で行ってきたが、専門性を追求するためには担任以外がもったほうがいいのか。
- ・1年生のうちはいくつかのゼミを回って最終的に1つに絞る。
- ・自分でやりたいテーマを自由に決める。そのテーマに教員が適宜指導にあたる。

②実務的な進路指導の業務効率化について取り組んでいること

- ・手が回っていないのが現状。自分1人で抱えることをできるだけなくし、他の教員にできるだけ振っている。振り分けるための下地を現在整えている。名刺に関しては一応綴じてもっている。
- ・名刺の管理は全くしていない。指定校の書類等は事務職員が行ってくれている。データベース化し生徒が閲覧できるようにしている。
- ・名刺はまったく管理していない。来客は空きコマの一覧を作成し、進路部長宛以外は担当教員のところに電話がかかるようにしている。
- ・名刺の管理はしている。進路指導部は進路指導の仕事のみをしている（5人ほど）。名刺の裏に似顔絵を書いている。指定校の管理はしているが、生徒の閲覧はさせていない。学園内の大学進学率をあげたいため。生徒が聞いてきたときのみ見せるようにしている。WEB（Classi）で配信している。
- ・1学年に進路指導が1人しかいない。指定校推薦を利用する生徒がそもそも全然いない。最低限の管理しかしていない。
- ・名刺は溜まっていく。有益な情報をいただける大学は系列校すべてで共有できるようにしている。
- ・スプレッドシートに指定校等を入力。新人教員には入力をしてもらうことで勉強してもらっている。専門学校の利用率が激減しているので、学校名だけにしている。
- ・各学年の副主任が進路担当。来客対応はほぼ部長が担当。指定校はあまり使いたくない。目をむけさせたくない。希望がある場合各担任が対応。

③年内入試で進学が決まった生徒に対する指導

- ・指定校推薦等で決定した生徒には誓約書を書かせている。進路決定後も何かあれば取り消しされることもある。

- ・キリスト教の学校なので、奉仕活動等でサポートしている。
- ・内部、指定校で合格した生徒には資格検定を受けさせている。日本語検定等。理系の生徒は問題集が大学、高等学校で作成しているのでそれに取り組ませている。チャレンジ制度のある大学ではその勉強をさせている。600人中150人くらいがその対象。
- ・8割以上の生徒が年内に進学内定。大体の生徒は欠席することなく登校している。スタディサプリ等で課題を配信している。
- ・単位制の高等学校のため単位が取れていればそれ以上のことはさせていない。
- ・内部推薦は奨学金制度があるので、懇談等を通じて引っ張っている。担任レベルで行っているのが現状。資格取得のアナウンスをしつこいくらい言ってきかせる。
- ・学校内の課題を課している。大学等が課すものは当然させる。通信制のため3年生2月等に転入学する場合もあるので、その生徒に応じて対応する。
- ・年内で合格する生徒は少数。担任が課題をやるように促す程度。
- ・大学から入学前課題が与えられるので、それをやらせている。が、他大学を受ける生徒に教員の力が割かれるために、その課題をサポートする力は薄まってしまう。また、留学制度などもあり、留学中に課題をやっているかの確認がおろそか。

④配慮生徒の指導にたいして

- ・不登校生徒について不登校認定を学校が認めた場合は欠席日数に緩和条件がある。
- ・高等学校では教室に入れない場合は欠課時数がたまる一方になり、転学のパターンが多い。タブレット等で課題配信を検討し単位数とみなすことを検討している。入学前に配慮できる範囲を把握している。
- ・配慮にもケースバイケース。いじめ等の場合はオンラインでの課題を授業日数と認めた場合もある。系列大学は事前にその配慮する内容を相談する。支援員等の要望をする場合もある。
- ・支援教育委員会という組織がある。保護者からの上申、職員会議で認定される。家庭訪問等を登校日数と認める場合等がある。識字の問題等ある場合についても拡大印刷やルビうちを行っている。
- ・合理的配慮は個別に行っている。給食制なので、アレルギー対応等はしている。基本は担任学年団が担当している。
- ・いろいろな通学パターンがある。保護者が選択して通わせているので、できる範囲内で支援している。
- ・指定校等については学内での一定の基準を設けている。場合によっては認める場合もある。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

進行役の先生が、各学校が課題とするテーマを4つに絞っていただき、各先生から満遍なく意見を聞き出していただけました。各校とも学校の内部事情でもある内容でしたが、自校の例をそれぞれあげていただき、質問された先生方の課題とする事柄に対して、ヒントになることが多分にあったかと思えます。

開催日	令和 7 年 6 月 10日（火）	開催場所	大阪私学会館 3F 302
参加校	宣真高等学校・大阪学芸高等学校・大阪体育大学浪商高等学校・東大谷高等学校 金光藤蔭高等学校・香里ヌヴェール高等学校・追手門学院高等学校 以上 7校 7名参加		
時 程	15：20～16：50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
司会より 多様化する進路に関しての進路指導部の業務にあたっての、現場での取り組み悩みの共有をすることで、新たなヒントを得る場にできればと考えている。			
■自己紹介			
*進路の刊行物は作っていない。業務効率化や進路指導のヒントをいただければと思っている。			
*今年1年目の進路部長。『進路の手引き』を作っている。内容は学内推薦の要項や入試制度の説明なども入れている。ベネッセの共テ分析なども載せている。			
*進路部長3年目。少しずつ自分なりの進路指導のあり方を模索している。クリアファイル式で進路情報や進路決定までのプロセスなど進路の流れがわかるようにしている。			
*「進路のしおり」を全学年に配布。保護者進路講演会の際に保護者に渡している。昨年度入試の振り返りや業者による入試分析などを行う。指定校・内部進学などの情報も載せる。就職よりも進学を目指す生徒が多い。ただ、安易な進路選びにならないようにするところが難しい。			
*進路指導部長4年目。冊子形式では配布していない。データ配信をしている。模試分析や入試区分別のデータを分析的に伝えている。「進路通信」も発信。Google Classroomを通じての配信が多い。			
*「進路の手引き」を作成。進路の力の入れ方が弱い。9割が年内入試で決定する。看護・特進などの意欲のある生徒を中心にして、受験をする生徒を増やそうとしている。			
*「進路の指針」を進路部長時代から6年間作り続けている。属人化しており、それが最大の課題。進路に向かう取り組みと、数的な目標、身近な先輩の成功体験などを可視化することで、一般入試に向かう生徒を増やそうと考えた。6年前と比較して3月まで闘う生徒は倍増した。			
■進行内容			
1. 『進路の手引き』、だれが作る？ その活用は？			
➤ 進路部長が単独で作る。合格体験記を載せるようにしているが、進路部長の交代もあり、今年度は原稿が集まらなかった。データは進路指導部で共有しているが、生徒に対して下ろせていない。			
➤ 進路部長と進学就職担当の教員が2人で作っている。卒業生を招いての進路ガイダンスをやっており、それによって合格体験記の代わりとしている。3年生対象の説明会などを実施。進路意識の向上を目指す。			

- 進路指導部長が作る。以前からのデータを更新して作成。スポーツが盛んな学校であり、推薦枠の競合などが多く、難しさを抱える。出口の重要性もあり、指導スキルが異なる教員でも必要な情報を載せるようにしている。できるだけ大学への意識を向けるように努力している。
- 進路部長が一人で作っている。内規を文言化して載せることが重要であると思う。大学受験をする（した）生徒からの体験を後輩に伝える機会の重要性を感じている。専門学校への安易な進学が悩みの種である。

2. 数値目標って、ある？

- ある。上から降ってくる目標が実態と乖離している（低い・高い）。
- ある。進路指導部で目標を設定している。
- 特に降っても来ないし、設けてもいない（これが多数）

3. 求人表分類ソフト「ハンディ」っていかが？

- 非常に便利である。家でも見られるし、親と同時に見ることができるので、有効性が高い。
- 指定校もリスト化できるらしい。
- 指定校推薦はデリケートな部分もあり、データ化には慎重な姿勢になってしまう。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

終始和やかな雰囲気で進行した。それぞれの学校の独自の事情と、進路指導部が抱える共通化した課題について理解を深めることが出来たように思う。限られた時間ではあったが、他校の取り組みを通じて新たなヒントが得られた参加者が多かったのではないか。「ハンディ」については、導入または導入を積極的に検討しているようだった。次年度以降、進路指導部必携のツールになるか注目に値する。

開催日	令和7 年 6 月 10日 (火)	開催場所	大阪私学会館 3 F 303
参加校	大商学園高等学校・金蘭会高等学校・大阪女学院高等学校・大阪信愛学院高等学校 大阪薫英女学院高等学校・建国高等学校・賢明学院高等学校・神須学園高等学校 以上 8校 8名参加		
時 程	15：20～16：50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		

■自己紹介＝学校紹介・課題の共有（刊行物・学校の状況を中心に）

1：刊行物について（ほとんどの学校が出していなかった。出していたがやめた学校もあった。）
《出していない理由》

- ・入試が年々変化しており、マニュアルを作成する労力が無駄（作ることが目的化した）。
- ・ほとんどが年内入試なので、過去のデータが参考にならない（相関性がない）。
- ・模試のデータと実際の入試結果の乖離が大きく、データが間違っ了解釈につながる可能性がある。
- ・その都度、資料として掲示・配布しているのでいい。
- ・配信しているので、紙の刊行物は無い。
- ・指導の際には、業者や予備校のものを使用する。

2：業務の課題について

- ・分掌が組織化されていないので、業務過多・偏在がおこっている。
- ・総合型入試の指導に対する煩雑さ・仕事量・指導する教員の少なさが課題。
- ・部員はいるが、進路部長がほぼ一人で抱え込んでいる。

■進行内容

1：進路指導部の業務に関すること

- ・進路指導部の校内での位置づけが低い。組織化されていないため、部長が孤独に作業している。
→ 配当教員が少ない（教務に人員が偏っている）。仕事を振るだけの人数がいない。
担任と兼務していることが多いので頼みづらい。
- ・教員間（進路指導部と他の教員との）の温度差があり、仕事の共有することが難しい。
- ・来客対応が多い
- ・兼務（部長・主任・担任など）が常態化している。
- ・部長は進路指導室にいて業務を行う。部員はいるが、実際に業務をおこなわない部員がいる。
仕事の割り振りのイメージがわからない。
→ 例えば、模試の時間割（進路）・指定校の作成・データ処理専門の部員・就職担当・型別に
担当教員を配置・外向けや校内イベント・出張などは部長がやる。
- ・指定校や総合型入試の面接指導を全て進路がやっている。特に、指定校の面接指導は進路が

全員行う。

2：業務改善へのヒント

・組織の有り様

- 分掌・学年の連携ができていれば、進路指導部の教務はかなり軽減できるのでは。
経験値・年齢構成によっても、進路に業務が偏る場合がある。

・意思決定

- 日常的に学年と話し合っている。管理職・学年主任との話し合い、その後全体におろす。
校内専用のネットワーク上でやり取り（カレンダー・掲示板などの活用）

・業務の共有

- 全体の業務の可視化で、教員全体で業務の状態を共有。引継ぎもしやすい。
- アクセス権を制限して情報の共有化を妨げていたが、アクセス権を拡大して全体で情報共有ができる仕組みを作った

・管理職の指導

- 全体への指導がない（放置している）と、分掌と学年との関係性が分断したり、二度に
なったりして業務の偏在がおこる。

3：入試業務に関すること

- ・年内入試がほとんどで、指定校や総合型の仕事量が煩雑になり、業務量が増えた。
- ・総合型選抜に関する指導は、外部講師の力も借りている。
- ・指定校推薦の情報管理が難しい
 - 情報を一斉に開示する学校もあれば、その都度担任に知らせている学校もある。
安易に指定校に流れないようにするため、情報を小出しにする工夫もある。
- ・面接練習について
 - 担任の指導が基本。指導内容の均質化が課題（指導の仕方を共有することで改善）。
指定校の生徒全員を進路が面接指導もあれば、かつてしていたがやめた学校もある。
学年関係なく全ての教員で面接練習を行う学校もあった。
- ・文科省の通知 → 公募推薦でも、仕事量（文章指導など）が増加する可能性がある

■最後に

- 高大連携情報交換会では、高等学校現場の現状を伝え、入試のあり方を一緒に考える機会にしたい。大学側からの話も積極的に聞く必要がある。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

主に、進路指導部の業務に関する内容が話題の中心となり、各校の組織・学校文化を知る機会となった。分掌の位置づけや、管理職・学年・他分掌との関係性によって、進路部長の業務に差があることもわかり、活発な情報交換ができた。特に、年内入試への対応は、一部署ではなく、学校全体の課題としてとらえる必要があるように感じた。

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 3 F 304
参加校	大阪明星高等学校・大阪電気通信大学高等学校・昇陽高等学校 大阪金剛インターナショナル高等学校・香ヶ丘リベルテ高等学校 関西大学第一高等学校・興國高等学校 以上 7 校 7 名参加		
時 程	15：20～16：50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
■自己紹介			
■進行内容			
4. 各校で配布している進路資料について			
➤ 高等学校1年生向けに最低限の情報を載せた簡単な冊子と、大学発行のパンフレット・冊子を全員に配布している。 ➤ 5月の懇談期間に進路のしおりを配布する。内容は昨年度の実績や学部紹介。その他、鳥取大学発行の地方国公立大学へのすすめを配布している。 ➤ 書面での資料作成は行っておらず、全てClassiを使った配信形式。全体に進学・就職情報を配信後、グループを細分化して必要な資料を適宜配信する。必要なものを必要なだけ提供するため、他校と比較して情報量は多くない。 ➤ 昨年度から冊子をWeb化し、アカウントを持つ生徒がホームページから閲覧できるようにしている。Web化により教員の負担は軽減された。内容は長年変わらない部分が多く、データの部分だけを更新している。 ➤ 毎年「進学ガイドブック」を発行しており、大学の合格状況だけでなく多様な情報を掲載している。夏の面談で学年全体に利用できるよう配布し、合格体験談も盛り込んでいる。Web配信は個人報が拡散してしまうため行っておらず、紙媒体で生徒や教室に配布・設置している。 ➤ 毎年「進路の手引き」を発行している。高等学校3年生の4月の進路・保護者説明会に間に合うよう、前年度のデータを基に業者に作成を依頼している。以前は高等学校3年生のみに配布していたが、全員に配布し、付属中学3年生の保護者にも配布している。合格体験談も掲載しており、冊子がかかなり分厚くなってきて費用がかさむことに課題を感じており、Web化も検討している。学校長や進路指導の方針で、手引きの発行は継続されている。 ➤ 進路に関する「本」(手引きのようなもの)は発行していない。			
5. 各校で実施しているイベントについて			
➤ 年に2回、中間テスト後に保護者向けの成績懇談会を実施している。また、大学の学部を知るための「学部連携セミナー」も開催している。以前は希望者のみの参加で土曜日の放課後に行っていたため参加生徒が少なかったが、昨年は「セミナージャンボリー」と称し、木曜日の授業時間(5・6限)を利用して高等学校1・2年生全員が必ず1つまたは2つの興味ある			

学部講座を選んで参加する形式に変更したことで、参加者の課題は改善された。その他、大学事務局が主催する大学全体説明会の中で、卒業生がパネリストとして話す機会が年に数回設けられている。

- 進路の多様化に対応するため、毎週のように様々なイベントを実施している。海外大学進学の情報を提供する「グローバル教育セミナー」を行う。外部の専門家や卒業生（例：医師）を招いたり、台湾の大学とのオンラインインタビューに生徒が参加したりする機会も設けている。生徒一人ひとりのニーズに合わせた情報提供を重視している。イベントは生徒のみが対象のもの、保護者も対象のもの、外部参加も可能なものを設定している。夏休みには、学力に関わらず生徒を京都大学などへ引率する「キャンパス見学会」も実施している。
- 学年の生徒数が約 900 人と多いため、コースごとに進路目標を設定し、それに合わせたイベントを実施している。特進クラスは京都大学や大阪大学などの理系学部を目指すため、高等学校 1 年生では京都大学の見学や予備学校の京都校での講演会を実施。冬には製薬会社の協力を得て、遺伝子検査や医療倫理に関する医療系セミナーを行い、理系の面白さを伝えている。高等学校 2 年生では、Spring-8 での探究活動を行い、総合型選抜に役立つ経験を積ませている。高等学校 3 年生では、医工連携について語ってもらう機会を設けている。
- 大学や専門学校の説明会は、学校に招いて実施する。来てほしい大学に来てもらい、生徒は事前に希望する 3 つの大学の話を聞くことができる。理系大学の説明会では、説明よりも施設見学を重視する傾向を感じている。
- 系列の短期大学があり、高等学校 2 年生の約 4 割が進学するため、全員で系列短大の見学を行っている。夏休みには希望者が 1 週間短大で実習する機会も提供している。また、本校を卒業し短大を経て社会で働いている卒業生を招き、講演会も実施している。校長が高等学校 3 年生全員（190 名）と進路面談を行っており、面接練習も兼ねて、放課後ではなく授業時間を使って 1 人あたり 10 分～15 分程度で行われている。
- 高等学校 1・2 年生向けに秋に説明会を実施している。1 年生は体験型、2 年生は分野別に分かれ、複数の大学から話を聞く機会を設けている。特進の生徒は、1 年生で高大交流、2 年生で国公立大学の見学を行っている。高等学校 3 年生では、面接講座や志望理由書講座を業者に依頼して実施しており、今年度は卒業生による講演会も検討しているとのこと。
- 業者に依頼するイベントが多く、動機付けに役立っている。大学を呼ぶのは年に 1 回（3 月）だが、年間を通してキャリア教育として業者に約 6 回依頼している。内容は「仕事の種類」から「面接指導」で、会社見学や就職ブースへの同行イベントもある。韓国の大学に関しては、昨年度から大学が来校し、希望者向けに年に 3～5 回ガイダンスを実施している。合宿も計画されており、昨年までは勉強がメインだったが、今年からは総合型選抜や韓国大学の準備として、高等学校 1・2 年生から実際の活動を行わせるように変更している。卒業生を招いた講演会も実施しており、生徒が自身の進路を具体的にイメージしやすいよう配慮している。

6. 各校での探究活動の実施と総合型選抜への対応について

- 探究活動が総合型選抜や指定校推薦に活かされれば良いが、大学側のニーズは常に変化し、画一

的な探究活動になってしまう懸念を抱いている。また、基礎学力や語学力がない生徒よりも、ペーパー試験で高得点を取れる生徒を大学が求める傾向もあると感じている。そのため、自校では総合型選抜はほとんど行わず、一般選抜の方針である。

- 基礎学力がないとその後の研究活動などはないという考えを生徒に伝え、まず基礎学力をつけることを重視している。生徒個別の興味に基づく探究活動を深く掘り下げるような誘導はあまり行わない。しかし、シンポジウムやワークショップ形式の活動はいくつか開催しており、「経験重視」のアプローチを取っている。これらの活動がコンテストで評価されることは少ないが、校内で完結させ、クラスの記録として残す形で実績を積んでいる。総合型選抜は生徒には「とりあえず一回出してみよう」と、探究活動の経験回数を増やすことを推奨している。探究活動の評価だけでなく、共通テストや小論文で合格するケースも多いため、多様なアプローチを生徒に提示し、挑戦を促している。
 - 今年度までは「調べ学習」程度の活動が中心だったが、3年生から探究活動を本格化させる予定である。担任間の指導格差を防ぐため、業者に協力を依頼することも検討している。探究活動に興味がある生徒はピックアップしているが、全教室で質の高い指導を行うことは難しいため、外部の力を借りることも視野に入れている。
 - 生徒が自身の「コンピテンシー」や「レジリエンス」を客観視できる仕組みづくりを進めている。中学では「エナジード」というテキストと動画コンテンツを使い、高等学校では企業の人事査定にも使われる「Ai GROW」というツールを導入し、自己理解や相互評価を行っている。これにより、生徒は自身の強みやリーダーシップなどを可視化でき、楽しんで取り組んでいる様子だが、これが最終的にキャリアにどう繋がるかはまだ模索中。
 - コース制であるため、生徒は目的意識が明確である。その専門性を活かして総合型選抜に本格的に挑み、成果を出している。例えばスポーツコースの生徒は、スポーツ活動で忙しく基礎学力の学習時間が少ない中でも、その活動実績を活かして大学に進学している。保育コースやパティシエコースの生徒も、授業内での実践的な活動を実績として活用し、関連分野への進学に繋げている。
 - 探究活動は各コースの生徒がそれぞれの専門分野を深く掘り下げる形で行われている。今年度から総合型選抜に力を入れ始めたため、探究活動が具体的な進学実績にどう繋がるかは今後の課題だ。
7. どのような基準で指定校推薦の校内選抜を行っているか。
- 評定平均値を主な基準として校内選考を行っている。
 - 評定と欠席日数を基準としている。評定で差がつかない場合に欠席日数を考慮する。生徒向けの資料には両方の基準を明示している。
 - 評定を優先しつつもどれだけ資格を持っているかやどのような活動をしたかも考慮し、優先順位やランク付けを行っている。高等学校3年生の夏の終わりに、全生徒を対象とした「校内模試」を実施している。この模試の点数と評定をすべて計算し、1位から順位を付けて選考するため、ほぼ同点になることはない。校内模試は全員が受験必須であり、受験しないと推薦を受

けられないというルールがある。

- 評定と模試の点数を基準としている。模試は直近のものを参考にし、これまでに選考で採めたことがないため、それ以上過去の成績を遡ることはないが、生徒には遡る可能性も伝えている。
- 評定が最も公平な基準だと考えている。例えば、評定が0.1低かったという明確な理由があれば、生徒も納得しやすい。多様な活動を点数化するのは難しいと感じている。
- 評定、検定、そして7月下旬の実力テストの評価などを総合的に判断している。部活動などで顕著な活躍をしている生徒の場合は、その頑張りが進路に生きるかどうかを考慮し、最終的には学年で相談して決定している。

8. 高大連携情報交換会で大学側に意見したいこと

- 大学や短期大学には、郵便物を極力減らしてほしい。
- 紙の資料は不要だと感じている。
- 指定校推薦の募集要項について、必要最低限の情報しか記載されていないことがあり、日程など詳細をいちいち調べなければいけない状況を改善してほしい。一覧にまとめてほしい。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

後半につれて発言も多く、非常に短い時間であったように感じた。問題認識が共通する場面も多く、情報交換の場として十分に機能していた。

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 3 F 307
参加校	アサンプション国際高等学校・あべの翔学高等学校・アナン学園高等学校 大阪青凌高等学校・城南学園高等学校・精華高等学校・太成学院大学高等学校 以上 7 校 7 名参加		
時 程	15：20～16：50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
■自己紹介（学校紹介）			
■進行内容			
1. 進路の刊行物の活用と悩み			
・「進路の手引き」という 80 ページぐらいの冊子がある。いつも 6 月上旬に三者懇談があるので、その三者懇談のときに 3 年生に配布する。中身は進学編と就職編に分かれており、昨年度の進路実績とか、昨年度の指定校一覧、進学の流れなどを載せる。就職の方も一連の就職の流れを書いている。履歴書の書き方や校内の書類の書式を載せる。 実際は進学希望生徒が自分の成績でいけるところはどこかなという見方をする。先生も、卒業・進路保証をしなければという思いから、生徒にすすめる。先生に対しては毎週の 3 年生の進路会議で、あくまで自分の希望の大学がまず先にある、そこに指定校があれば考える。その姿勢で先生がいて欲しいと話をする。 ・指定校については、7 月の末、終業式後に 3 年生に対して説明会を開き、そこで配布する。人数、評定、欠席など詳細および減免を載せている冊子を作って配布する。指定校に関しては校内の条件があり、まず指定校説明会に参加する、校内の模擬試験を 2 回以上受験するということ、オープンキャンパスに 3 校以上、応募する学校を含めて 3 校以上行くこと、条件満たさなければ指定校では応募できない。懲戒指導を受けた者は取り消し。 ・「進路の手引き」という内容自体も先ほどと同じ。進学部の部と就職部に分かれ、大学共通テストの説明や面接でどんなことを聞かれるのかということ載せている。進学にかかる費用も載せている。教員も生徒も指定校一覧をまず見る。これを見て三者懇談をするような流れになってしまう。どこやったらいけますかみたいなことをはっきりと親御さんも聞いてくるみたいな状態。全学年に配っているので、1 年生の時から見、東大阪に本部を置く総合大学に行きたいと言って、それをモチベーションに日常の授業を頑張ってくれる生徒もいるので、デメリットとメリットと両方あると感じながら、毎年続いている。 ・学校全体が総合型か指定校で決めていこうという感じ。スポーツ科があるので、まずスポーツ推薦がかかるかどうか。次は総合型選抜で、大学で競技を続けたいという生徒はスポーツ系の方向に行き、そうでなければ経済学などへ行く。パティスリーコースでは半分ぐらいは辻調に進学する。 ライブデザインコースでは専門学校に行ったり、指定校で大学に行ったり、総合型選抜など いろんなパターンの生徒がいて、指導をしていくことになる。指定校で合格したが			

入学金が出ないとか、入学手続の書類を提出しておらず、公印を捺した書類を出してくれと大学側が言われたりとか、進路指導がバタバタ走り回るという件があったりもした。

- ・指定校受験のための条件、選考基準を「進路の手引き」に載せている。1年生が入学後に配っているので変更できない。1年生が3年生になるまで待たないといけない。全学で配るのも必要ないのかな、と考えている。

- ・進路指導部としての刊行物はない。新入生に冊子を入学時に渡すので、その中の1ページだけ進路指導部の紹介があるぐらい。あとは4月に新入生のみなさんへということで、多くの場合は就職で進学指定校というのがあると案内はする。

- ・調理科の中で指定校の情報は先輩からずっと聞いているみたいなので、最初からそういう指定校を考えている子は、しっかり勉強をしている。調理師の免許が取れるということで、調理師になるという気持ちで入ってきた子が多いので、調理科の科長から指導もしてもらっている。指定校の基準は設けているが、評定2.7以上というぐらいである。懲戒とかあれば推薦しない。指定校のは三者懇談が1学期末にあり、その時に一覧表を提示して懇談で見ながら、担任と保護者と生徒で考え、夏休み明けの8月末に応募用紙を配り、そこに希望校と応募理由を書かせる。これを提出して、9月頭に指定校推薦の会議があるという流れである。総合型もオープンキャンパス参加型がほとんどで、指定校よりも先に総合型の方が決まっていたりするの、今後の大学進学はそんな感じである。

- ・「進路実現の教育」という刊行物を毎年出していて、対象は新3年生。内容の構成はお話が出ていた先生方とほぼ一緒である。毎年年度の切り替わりの時期に、進路の決定データをそのまま反映していく。

- ・指定校は前年度の一覧を載せているが、学部、条件、人数、その他諸々の条件等を一緒に載せている。これを4月に保護者が進路説明会に来る時に配り参考にしてもらう。実際に当年の指定校の一覧は、夏休みが明けて9月の初めに一斉に開示する。データ化するのに大変な作業になる。指定校の前年度のデータだけでなく、総合型、学校推薦型などで進学を目指すような生徒のためにも、過去3年度分の評定平均値別の受験校学部の合否表を一覧で出している。刻みは4.7以上、4.3から4.6以下、3.9以上、4.2以下などと細かく分けながら、そういう評定を持っていた先輩、過去3年分がどの大学を受け落ちたかというのが分かるようになっていて、自分の位置づけというのを客観的に見れる。一般で目指していくというコースもあるので、そこに向けては、偏差値別で同様に3年分まとめ直している。偏差値に関しては、ベネ○のGTZをA1、A2に分けて、どの大学が何人受けて受かっていたかというのが分かるようにしている。指定校に関しては、幅広く進路を目指すコースが基本的に指定校を考えている。そこにはスポーツを頑張っている生徒もいて、スポーツ推薦がなければ指定校でという感じもある。残りは内部進学、さらに学力を伸ばすコースはあまり指定校は出てこない。各学年でのコース変更を可能にしておき、カリキュラムもそろえている。最近の問題は、スポーツ推薦で合格する生徒が多くて指定校枠が活用できない場合や、十分に評定があるのに自信を持ってない生徒も増えている。そこを説得できる先生とできない先生がいる。進路情報は共有しているつも

りだが、個々の先生方の力・言葉で左右される。指定校を活用し切れていない。

- ・特進コースが指定校をとれるかどうかについて、1年生の時に伝えていないので、特進コースでも取れる状況になっており、担任指導でとらないようにしていく。他校ではどうか。

- ・特進コースは指定校が来ない大学を目指すコースなので、指定校を取る場合は他コースへの変更をすすめる。特進コースにいる生徒を指定校に誘導したりはしない。クラスが崩れる。

- ・懲戒については、指定校には影響しないようにしている。指導を受けたうえでどう変わったかを見ていく。

- ・特進コースで指定校NGの学校もあるが、1次選考はだめでも、2次選考からは認める場合もある。入学後にNGであることを話す場合もある。

- ・刊行物はない。その都度に指導をおこなっている。

- ・「進路の手引き」を発行している。内容はほぼ他校と同じ。進学・就職に分けている。就職は履歴書の書き方・作法や面接の質問など、進学は過去5年間の進路実績、入試型など、指定校の一覧は載せていない。1・2年生の担任には配布するが、懇談で見せて参考にする程度である。生徒は指定校の一覧から学校を選んでいる節があり、疑問がある。近隣の学校を選ぶ傾向がある。

- ・指定校が一番多い進学方法になっているが、総合型も増加しているので、指定校によって生徒を引っ張るということもできにくくなっている。頑張らなくてもどこでもあるという状況になりつつある。

- ・刊行物はない。新入生に配る手引きに進路実績などを載せている。あとは保護者説明会などで資料として実績などを配布し、指定校の説明もそこでしているが、リストは開示していない。担任と面談して第一志望が指定校であった場合、進路でリストを見せて説明している。指定校で進学する生徒は15～20名程度。この形は継続していきたい。

- ・総合型については、プレゼンや面接、書類が大変という理由で、生徒たちは遠慮していたが、昨年度に受かった生徒が結構いて総合型いけるかもという空気になっている。

2. 総合型の指導の負担

- ・複雑化する進路指導の一つが総合型である。総合型か公募制かわからないような制度も出てきて把握しきれない。

- ・面接やプレゼンの指導で、先生方の帰る時間が5時過ぎることもある。勤務時間過ぎても残業手当も出ない。いい方法ないものかなと思っている。

- ・面接に関しては、講堂に2,3年生を集めて、一通り面接指導、外部講師の先生を呼んで、何人かピックアップして実演入れながらやってもらって、それを基本に教室で各担任からやってもらう学年からやってもらうっていうことを行っている。その後は生徒の入試時期によって担任が残っている。他校はどうされていますか。

- ・高等学校2年生で志望理由書を書くように、業者に頼んで、最初の何を書いているかわから

ない状態からは脱却した形でスタートできている。面接指導に関しては高等学校3年生で業者が入ってもらっており、希望者のみで1学期の間にやってもらう。希望者は30名程度。志望留書も見てくれるので2年の段階で書き上がって3年の面接のためにもう一回書いて添削してもらい面接で楽にしようかなというところである。直前になってやるのは担任なので、あまり負担は変わらない。下地ができて分だけましという感じである。

- ・業者の費用についてはかからないが、個人情報を書く必要がある。
- ・国語の先生、担任の先生に負担がかかっている。
- ・生徒には担任を通じて教科担当の先生にお願いするようにしている。担任が窓口となる。

3. 絶対評価になってからの評定の変化について

- ・観点別の絶対評価になって評定が全体的に上がっているが、他校ではどうか。上がっても問題はないのか。
- ・多少は上がっているが、調整し、生徒に有利になるようにつくっている。公立校ではのきなみ下がっていると聞いている。
- ・評定は下がっている。教員が相対評価からの変更に対応できていなかった。教員の意識を変えようとしている。最初に良い点をつけると勉強しなくなる生徒が出てくる。
- ・昔から絶対評価であったので、あまり変化はない。どちらかと言えば上がる生徒が多い。
- ・上がっている。観点別評価の導入について、プロジェクトチームをつくって検討していた。生徒の利益になるようにつけている。考查点を中心につけているという感じではない。進路としては絶対評価によって評定があがるので、大学側が指定校の評定基準をあげてくることを心配していたが、逆に大学側は下げてきている。指導とセットの評価にしようとしている。
- ・あまり変化はない。観点別にあまり沿ってできていない。平均点の幅を決めたりしている。
- ・あまり変化はない。7割学力試験で、残りを提出物や授業態度などであてはめている。

4. 探究について

- ・探究をつかった総合型選抜もあるので、それに活かせるようにしたい。
- ・最初は担任に振られていたが、最近は教科に振られるようになった。地歴では、1年生ではニュース検定、2年生では世界遺産検定、3年生は進路学習でそれぞれ取り組んでいる。ニュースを一つとり上げたり、世界遺産では日本のものを1つ、世界のものを1つ取り上げて調べる。年度末に検定試験に挑戦する。新1年生ではベネッセの探究教材を使用している。
- ・学科・コースで決めている。スポーツ科はクラブ活動を探究に充てている。パティスリーコースは製菓実習を探究の授業としている。特進コースなどは基本的に担任に丸投げ状態である。学校全体としてリーダーがいて引っ張っていくようにできていない。なかなかうまくいっていない。
- ・看護科と調理科しかないので、各学科でそれぞれ専門的なことをやっているの、通常の探究の授業時間は担任まかせになっている。
- ・本気でやっている。特進コースで10年前からやっている。教科学力だけで進学させていくこ

とに疑問があった。総合学習と言いながら、実際には科目学習をさせていた。しかし、それぞれの先生に歴史学や心理学など専門があるので、講座を開講してゼミ形式で研究発表も行い、論文の形式にもする。これが軌道に乗って、国立の推薦に合格するような生徒も出て来た。探究が必修化されると全コースにひろげた。抽象的な思考ができるようになるのが特進で、具体的な調べ物をするという形でもう一つのコースでも行うようになった。生徒の成長や進路面では活きている。

- ・コースで話し合って内容を決めている。探究で大学に入れることを目標にしているコースもある。

それ以外は進路探究などHRの延長でやっている。

- ・業者を入れて、企業探究クエストなど行っていた。HRの延長で担任が実施していたが、探究の教科担当を決めて行うようになった。やることは企業が準備してくれている。良い点としてはプレゼンテーションなどい色々な力がついたこと。

5. 高大連携について

- ・授業に大学・短大に授業をしてもらったりしているのかどうかについてお聞きしたい。

- ・八尾にある大学に公務員講座を展開してもらっている。高大連携の授業をしてもらっている。

- ・調理科では千里にある大学の栄養学科に1年に1回出前授業をしてもらって、入試の際に指定校も含めて特典がある。

- ・オープンキャンパスを1校のみでやってくれる。希望者30名程度。土曜日にうけいれてくれる大学をお願いしている。

- ・複数の大学で見学会をお願いしている。模擬授業もお願いしている。さらに複数の大学に出前の講演会やバスでのキャンパスツアーをコースごとで実施している。看護系を目指す生徒対象に見学会や出前授業をおこなっている。内部進学を目指すコースでは、大学の先生の授業がコースのカリキュラムに組み込まれており、内部進学後はすでに何単位かを修得済みということになっている。

- ・平日は授業の関係で出にくいですが、土曜日は受け入れてくれるかどうか。

- ・夏休み中や定期考査最終日の午後などを使う。校外学習で大学見学会プラスαで行っている。

- ・大学は業者を通さずに直接高等学校からお願いすることを望んでいる。

6. 保護者集会について

- ・時期や内容について教えてください。

- ・3年生の6月の第1週にPTA総会があり、進路から話をした。その際に進学に関わるお金や進学プランの話をしたが、時期的に遅いのではと感じている。総合型などで入試時期が早くなり、お金が必要な時期も早まっている。

- ・1年生は10～11月に保護者説明会を実施、その際、学校から様々な説明をするが、プラス講演会を行い、高1の段階でファイナンシャルプランナーに来てもらってお金の話をしてもら

う。3 者懇談の際には、お金に関わる刊行物を必ず担任から渡すようにしている。2 年生になったときには、修学旅行明けに 10・11 月に保護者説明会をして進路に向けた説明をする。ベネ○
○や大学などコースごとに外部の講演を招いている。3 年生では 4 月末に説明会を実施、学校か
らの刊行物を配布、ベネッセや系列校の大学の先生、入試課の方などに話してもらう。
・国の教育ローンが受けられない場合がある。通帳をきれいにしてもらうように話したりして
いるが、3 年生では間に合わない。

感 想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
-----	--------------------------------

終始おだやかな雰囲気で様々な情報交換がおこなわれた。参加者の先生方みなさんが、それぞれの
学校の特色やコース編成など違いがありながらも、積極的に学校の状況や実践例などを話してい
たき、参考になることが大変多かった。司会の進行もスムーズであり、特に問題点などはなかった
ように思う。

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 3 F 308
参加校	大阪偕星学園高等学校・大阪商業大学高等学校・関西大倉高等学校 常翔啓光学園高等学校・清教学園高等学校・清明学院高等学校・羽衣学園高等学校 箕面自由学園高等学校 以上 8 校 8 名参加		
時 程	15：20～16：50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
■自己紹介 ・自己紹介とともに各校の概要を説明 ■進行内容 1. 多様化する進路指導と業務について、刊行物などを例に。 ➤ 進路用冊子をなくし、進路関連の書類やマニュアルなど、すべてデジタル化することで一元化を目指した。受験体験記なども共有している。予算の削減にもつながっている。 ➤ TEAMS を利用して生徒からの質問や添削の依頼を受け付けている。一度に多くの対応があった場合、苦勞する。 ➤ 情報を Classi で共有している。生徒等への返信ができない設定も可能。 ➤ 校務システム BLEND を利用し、調査書・指導要録の作成。データを一元化することでミスが減った。 ➤ Classi と BLEND を併用している。同機能もあるが、自動問題作成（Web テスト）など、利便性の差があるので、併用している。 ➤ Classi と BLEND と TEAMS など、互換性に問題があるが3本立て、各機能の良さがある。 ➤ クラウドを用いた校務システムを採用することで、出席簿がなくなった。タブレットで出席管理が可能になった。 2. 校務システムが導入され、帳票のデジタル化が進む上で気づいたこと。 ➤ 調査書の校印の扱いは、原則アナログで対応している。 (高等学校によって押印は、担任・管理職・校長などさまざま) ➤ 調査書等での校印の扱いは文部科学省の通達で定められているか、確認する必要がある。 スタンプ機能を用いることができれば、労力が削減できる。 ➤ 大阪市の中学校から送られてくる指導要録は、校印が省略されている。 ➤ デジタル採点は利便性が高い。データで返却・プリントアウトも可能。 ➤ 入試はデジタル採点、定期試験は併用。入試ではデジタル採点を利用していない。 ➤ 答案返却時の生徒との対話が行えないのは寂しい。アナログではあるが、人の手で採点した答案のメッセージ性を大切にしたいという意見もある。			

- 今後デジタル採点は増える傾向だと感じる。
3. 業務上困っていること。
- 進路ガイダンスを年 14 回こなしている。その都度冊子を準備し、忙殺される。
(冊子は、進路戦略を記載した教員用、生徒用、保護者用を作成。校外不出のデータもあるので紙ベースで用意している。)
 - 長年の慣習になっており、年間行事予定にも入れられている。学年に業務を移行したいが、一貫性が損なわれる懸念があるので移行できない。保護者対象の進路ガイダンスも、学年・コースごとに説明している。
 - ガイダンスの回数を減らした。個別での対応機会は残しているものの、年 2・3 回では少ないという印象。
4. 大学など、学校訪問に関して
- アポイントがある場合はできるだけ受けるようにしている結果、年 200 件以上の対応になってしまい、持ち時間の関係もあって非常にタイトな状況が生まれている。
 - 空いている教員が対応する。重要な案件については部長が対応している。
 - 空き時間を教務のデータから把握し、一覧表を作成している。
 - 公欠などの対応によって時間割変更が頻繁に行われ、時間割が常に変動するので、空き時間の把握が難しい。
 - 進路指導室に常駐のかたちで教員が 2 名いるので、対応しやすい。
 - アポイントのない大学や業者には会わない。または受付で断っている。
 - 後学のために、若い教員にできるだけ対応する機会を設けている。
 - 大阪私進研でまとめた「アポイント要望書」は、近隣の各大学には送っている。
5. 希少な進路希望を持つ生徒への対応
- 声優になりたいという生徒の申し出に対して、進路指導部に丸投げになっている。保護者も本人任せ、担任の経験値がないので仕方ないかもしれない。
 - アニメ系、声優などは専門学校だけでは難しいと説明する。今できる経験を大切に、人生の経験値を上げるように助言する。その過程でオーディションに挑戦するなど、自分自身で進路を切り拓く気概を持たせる。マンガ家でも同じことがいえると思う。技術だけが全てではない。
 - 宮大工やレアケースを扱ったことがある。また、日本は海洋国家であることから、国立清水海上技術短期大学校や港湾職業能力開発短期大学校神戸校を紹介したことがある。他の人があまり知らない進路は、希少価値が生まれ、給与などでも優遇されるのではないかと。

6. その他	➤ 府立高等学校の入試改革が行われる。「学校特色枠」といった各高等学校のアドミッションポリシーを重視した入試形態が用意される見通しである。総合型選抜に似た入試を経験する中学生が入学することから、高等学校でもその対応を考えておく必要がある。 ➤ 学校推薦型選抜において調査書の記載量はどうか。スコアに反映するなど、明確な基準を示してほしい。 ➤ AI 採用した入試判定で、推薦書等の意義や価値はどうなるのだろうか。 ➤ 無駄を省く観点から、出願時の諸々の手続きのデジタル化は進まないのか。 ➤ 各大学の様式を統一できるかなどの課題はあるが、「ハンディ進路指導室」が指定校の取りまとめ事業に参入しようとしている。 ➤ 「ハンディ」のビジネス的着眼点は面白い。個人情報ではないので、従来のものと併用してみても検証する予定である。 ➤ 併願でありながら大学入学までの事前課題を課すことはどうか。また、提出期限を大学共通入学テスト直前や一般選抜に影響が出る時期は避けてほしい。 ➤ 事前課題は大阪私進研としても課してほしいと要望した経緯もある。 ➤ 大阪公立大学が指定校推薦枠を設けるらしい。国立大学は文部科学省の指導が入るので、できないと思われる。都立大学では既に指定校推薦を実施している。地方の公立大の今後の動向も気になるところだ。
感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
	終始和やかな雰囲気の下、意見交換がなされた。進路指導の一端には、必ず教務との協働が必要と感じさせられるコメントが多かった。また、帳票をはじめ、ますますデジタル化が進んでいることが実感させられ、古い慣習にとらわれない業務の精査も必要ではないだろうか。煩雑な業務を簡素化し、その時間や労力をすべて生徒に還元できるように、今後とも自校だけにとどまらず、各校との意見交換や情報の共有の機会を増やしていくことが大切だと思われる。

開催日	令和 7 年 7 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 3 F 309
参加校	関西福祉科学高等学校、梅花高等学校、四天王寺高等学校、 東海大学附属大阪仰星高等学校、帝塚山学院高等学校、帝塚山学院泉ヶ丘高等学校、 近畿大学泉州高等学校 以上 7 校 7 名参加		
時 程	15:20～16:50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
■自己紹介 ■進行内容 1. 参加者自己紹介 2. 各校の現状報告および進路指導に関する取り組み紹介 3. 今後の課題と高大連携に向けた意見交換 ■参加校 1 ● 昨年度から進路指導刊行物（進路冊子）を初めて作成。 ● 進学先に対する理解不足により、入学後のミスマッチ・中退の数を増やさないように、大学に入る前に、進路についてしっかり考えさせるような構成を心がけた。 ● 例えば、将来を見据える（15 年後の自分など）を考えられるような構成に。 ● 進路指導が体系化されておらず、担任任せ・学年任せの傾向。 ● 対策として、生徒・教員双方に向けた進路冊子を作成。 ● 教員には指導マニュアルとしての活用も意図。 ● ただし、浸透には課題があり、教員の意識改革が必要。 ● 今後は、学年間で体系的に伝えるべき内容を整理・構築するのが課題。 ■参加校 2 ● 保護者向けに進学説明会を開催し、大学情報・入試方式・学費・奨学金など、大学受験の基本的な事項をまとめた冊子を配布。 ● 学内推薦の規定が、低学年からの浸透するような構成に。 ■参加校 3 ● 進路指導関連刊行物は「進学のしおり」と「合格体験記」の 2 種。 ● 各コースごとに説明が異なるので、教務的手続き・提出書類・様式など、共通する部分が集約された内容。 ● 合格体験記は約 50 名分、イラスト付きで生徒に好評。ただし、次年度はウェブで閲覧できるものに切り替える可能性もあり。個人情報の観点から、顔写真の掲載に関しては、検討する余地あり。 ■参加校 4 ● 進路指導の冊子を毎年発行（進路行事予定、出願書式、体験記等を網羅）。 ● 中学生にも配布し、意識づけを促す。 ● 合格体験記は全員から回収。その中から、教員がピックアップする。			

- 編集作業は進路担当が中心となって夏までに仕上げている。
- 成績推移のデータや大学別体験談も充実。

■参加校 5

- コース別に指導体系が異なるため、全体としての統一は難しい。
- 冊子ではなく、最低限の進路便り（ルールや注意喚起中心）を年 1 回発行。
- ガイダンス用資料はコースごとに作成。

■参加校 6

- 今年度から「進路のしおり」を新規作成。
- 推薦入試で受験する生徒が主流であり、一般入試の体験談が生徒に響きにくいという課題あり。
- コースごとに進学通信を配信（例：系列大学全学部紹介など）。
- 活用促進のために教員の活用意識が鍵。

【共通課題・意見交換の要点】

- 教員の進路指導に対する意識のばらつき。
- 生徒の進路選択における情報不足や理解不足。
- 合格後のミスマッチ（中退や不満足）を防ぐ取り組みの必要性。
- コース別運営における情報共有・統一の難しさ。
- 合格体験記の活用方法や配布形態（冊子 vs データ）の検討。
- 総合型選抜入試における、生徒の小論文・プレゼンテーションの指導について、負担が過多になっている教員がいる問題。
- 早期に進路が決定した生徒の指導。

【「高大連携情報交換会」に向けた質問事項】

- ・ 公募制推薦入試について、関東での動向を踏まえて、文科省の是正勧告を受け、関西の大学ではどのように対応し、変更になっていくのか？
- ・ 総合型選抜入試において、合否が学校に通知されないのか？
- ・ 指定校推薦の情報を整理するのに、情報のデータ化・電子はできないのか？
- ・ 推薦書作成の負担を減らしてもらえないのか？

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

本分散会では、各校の進路指導に関する工夫や苦労が率直に共有され、有意義な情報交換の場となった。今後もこうしたネットワークを活かし、各校の課題解決や指導の質向上に繋げていくことが期待される。以上、ご報告申し上げます。

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 4 F 講堂①
参加校	四條畷学園高等学校・大阪緑涼高等学校・ヴェリタス城星学園高等学校 長尾谷高等学校・星翔高等学校・浪速高等学校・初芝富田林高等学校 東大阪大学敬愛高等学校 以上 8 校 8 名参加		
時 程	15：20～16：50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
■自己紹介 ■進行内容 1. 指定校推薦と高大接続について（各校の状況） ➤ 大学入試が複雑化する中で、指定校推薦と高大接続の違いが曖昧な状況が困る。高大接続入試の内容を指定校推薦の一覧に記載すべきなのか、分けるべきなのか。 ➤ 昨年度、高大接続のお願いが多くあった。指定校推薦より早く入試があるため、一緒に掲載はできない。 ➤ 高大接続はなし。 ➤ 今年度から高大接続を考えている。その背景には系列校の募集停止があり、生徒の進路保証という観点から近隣の大学や専門学校に指定校や高大接続のお願いをしている状況である。 ➤ 協定のお願いが多くある。昔から協定を結んでいる学校の協定校推薦入試は高大接続よりの内容である。指定校推薦一覧に高大接続の内容も記載している。ただし、指定校推薦や協定校推薦と高大接続の種類を備考欄にわかりやすく記載する。 ➤ 2学期制のため、指定校推薦の校内選考が時期的に難しい。大学側からは指定校の発表をもう少し早めてほしいと要請あり。 ➤ 協定を結んでいる学校等あり。協定校の試験内容は指定校とほとんど同じ内容。高大接続について、現状では予定なし。 2. 指定校推薦と総合型選抜の問題点について ➤ 近年、入試制度の複雑化により総合型選抜と学校推薦型選抜の試験内容の境目が曖昧になっている。 ➤ 指定校推薦と総合型選抜の優遇の違いに注意が必要。例年指定校推薦の方が入学金免除等の恩恵が大きかったが、最近では総合型選抜の方が大きな特典を得られる場合もある。そのような状況から、指定校推薦と総合型選抜を同時に進めていき、総合型選抜の可否によって指定校を辞退したりする可能性がある。それに付随して、校内選考にて競合した他の生徒への対応も考えていかなければならない。 ➤ 指定校を希望する場合は、その他の入試を一切認めないことで指定校推薦と総合型選抜が被るリスクを失くしている。			

- 専門学校の場合、指定校から総合型選抜への変更はしやすい。一方で、4年制大学となると協定校推薦や高大接続など入試形態が多様化している中で変更の対応が難しい状況である。
 - 短期大学の総合型選抜は専門学校の専門学校に合わせてどんどん早期化している。4月からエントリーが始まる学校もある。
 - 高等学校の探求の時間（1.2年生時含む）を総合型選抜エントリーの資格としてカウントする協定校もある。進路の準備はいつから始めるのか、指導が難しくなっている。
 - 入試の早期化が進むと受験生の合格発表も早くなり、合格後の生徒たちのモチベーションを維持するのが難しいが、大学側もクラス分けテストやスカラシップテストなど、早く合格を出す代わりに入学までの勉強のつなぎを実施してくれている。
 - 総合型選抜の特典については生徒の家庭事情によって変わるもののため、学校側はそこまで配慮する必要はない。
 - 指定校推薦については厳しいルール化をしている。例として、3年次に問題事象があった場合は校長推薦を出さない、つまり学校推薦書が必要な入試制度を受験することができない。1年次からしっかりと厳しいルールを伝えることで、校内の治安維持に繋がっている。
 - 学校によって指定校の様式がバラバラであるため、一覧にする際の負担が大きい。ダブルチェック等慎重に一覧を作成するが、入力ミスに繋がってしまう。様式の統一をお願いしたい。
 - 指定校推薦の校内選考の基準が他校はどうしているのかが知りたい。特に評定平均値が同じだった場合はどうしているのかについて。
 - 指定校推薦の評定平均値が小数点第2位まで同じだった場合、模試の点数や活動の記録、欠席遅刻日数も選考基準にしている。
 - 指定校推薦の校内選考は教員の主観が入るので、すべてを数値化して選考している。ただし、関関同立や産近甲龍などの有名私大については、模試の結果によって出願できるか決まり、その後学年団で志望理由書を読み選考している。
 - 探求の授業で取り組んだことを指定校推薦の校内選考の基準に入れている。進路指導部としては、複雑な基準になってしまうため反対している。また、評定平均値が同じ場合は、進路指導部員と管理職が面談を行う。
 - 指定校推薦の校内選考基準で欠席日数が30日以上あっても校内選考に申し込むことができる。ただし、欠席が多いほど校内選考ではマイナスポイントとなっている。
3. 就職について
- 企業の学校訪問が年々増加している。5月、6月の挨拶は他の業務にも支障が出てしまうので困る。就職希望の生徒数も多いため、企業とのやり取りが負担になっている。また、職場見学には生徒一人で訪問させ、就職希望生徒は夏期休暇中に必ず見学をさせる。
 - 電話でのアポイントがあった際には、学校の就職状況をはっきりと伝え、就職実績がない業種については断る。
 - “ハンディ”というWebサービスを導入し、求人票の管理がとても楽になった。バーコードをスキャンすることで、求人票の登録ができる。また、その求人票の文字データから分類わけす

ることができる。

感 想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
-----	--------------------------------

どの学校でも複雑化する進路指導に問題や困りごとを抱えており、昨今の進路指導の大変さを改めて感じた。各校の現状の進路指導や取り組みも交えて話しをすることで、互いに共感しながら議論を進めていくことができた。各校の状況を聞く中で自校の課題の解決に向かうヒントも見出すこともでき、とても有意義な時間であった。議長の有家先生が問題提起や他の参加者の発言をうまく促し、議論がより深まったと思う。

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 4 F 講堂②
参加校	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校・利晶学園大阪立命館高等学校・清風高等学校 英真学園高等学校・好文学園女子高等学校・近畿大学付属高等学校・阪南大学高等学校 大阪商業大学堺高等学校 以上 8 校 8 名参加		
時 程	1 5 : 2 0 ~ 1 6 : 5 0		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		
■自己紹介 ■進行内容 1. 進路の冊子の内容や作成についてどうしているか。 ・「進路の手引き」(合否データ・卒業生の声など) 作成を 2 名で行っているが年々厳しくなっている。 ・進路実績などがメイン・内部推薦の状況(面談利用可)、進路ページは河合塾などの情報も転用し、2 名で作成している。 ・系列校大学の進路実績、指定校・一般入試の実質実績、先輩の声などを掲載している。 ・「進路の手引き」は指定校の学部学科・人数などは記載せず、国公立大学・上位進学者の声や合格体験記を記載している。2 名で作成している。 ・進路部員で作成ページを分業して全員で作成している。 - 進学実績・合格体験記の他、出願時の校内手続きマニュアルも掲載している。 2. 教務システム(調査書発行の電子化)をしているか。 ・生徒には用紙で「本校で作成のコードを書かせている」 ・調査書申請用紙を書かせている。 ・調査書申請用紙を書かかせている。手作業のままである。 3. 指定校推薦の扱いについてどうしているのか。 ・指定校の開示は以前まで教室掲示をしていたが、現在は食堂に 2 日間の掲示のみ行う。 進路部員が管理して人数制限して 1 5 分程度で開示。(過去は 6 0、現在は 1 9 に減らしている。) - 教員側の基準があり、その基準未満は落としている。総合型などに頑張らせたいのが理由である。 8 月末～開示、下位層が付属に進学。 ・私立文系・スポーツコースが指定校を優先している。 学校側の基準は厳しくしている。基本は一般選抜で受験するように指導している。 ・指定校ありきで過去は半数程度でエントリーしていた。			

総合選抜を主としているので指定校が減る傾向にある。

指定校の生徒には夏休みに課題を出している（基礎学力担保のため）

校内面接が指定校選考にある。生活面を見ている。

開示は1学期の最後に保護者に向けて行う。

- ・7月の頭で開示（保護者懇談で開示を依頼されている）

30～40程度の進学。期限ある限り2次、3次行う。

高3担任に志望校入力で競合を避けている。

- ・指定校は関関同立や内部進学先でない学部のみを受け付ける。

エントリーすると内部進学の特権を失う。

9月頭に教室掲示。詳細は担任に聞く。2週間掲示で1次のみ。

2次は内部進学できない生徒がエントリーする。

- ・1学期終業式までに開示、追加も開示している。

9月頭までの追加も開示。第10希望までエントリーできる。

出願が間に合うのなら3次、4次・・・と続ける。

4. 進路指導室はどうなっているか。

- ・進路部員は15名（中高）で5名は核で常駐する。

- ・進路指導室に入試担当兼事務員いる。

- ・進路指導室に事務員がいる。

5. 自習室の扱いをどうしているか。

- ・月～金：19：30まで自習室（部長以上管理職で当番）を開室している。

- ・進路指導室をサイレント自習室にしたい。

- ・外部委託で月～金：20：00まで、土：17：00までチューターが数名常駐している。

- ・自習室は月～土で特進コースだけが担任当番制で管理している。

実質はHR教室で自習しているのが現状である。

感想	分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他
----	--------------------------------

各校で抱えている課題や疑問が湯水のように湧き上がる雰囲気でした。学校の伝統や慣例に影響されている部分が多くあり、異なる点に関心を示したり、意見を交わしたりと積極的に参加して頂けました。アイスブレイクが済むと時間がいくらあっても足りないほどの意見交換ができました。今回は8名ということで、この程度の人数が適正ではないかと感じます。運営上の問題点というほどではありませんが、1つは統一のテーマがあり、それをはじめに意見交換するとスタートがスムーズになると感じました。すべてを取り入れることは難しくとも他校の状況を知り、自校に転用できる部分が1つでも見つかるように積極的に参加して頂いておりましたので、分散会としては有意義なものになりました。

開催日	令和 7 年 6 月 10 日 (火)	開催場所	大阪私学会館 4 F 401
参加校	上宮太子高等学校、大阪商業大学堺高等学校、関西創価高等学校、金蘭千里高等学校、相愛高等学校、P L 学園高等学校、東大阪大学敬愛高等学校 以上 7 校 7 名参加		
時 程	15:20～16:50		
内 容	「多様化する進路指導の対応について」 ※「高大連携情報交換会」に向けて		

◆自己紹介

合わせて、この機会に聞いておきたいことを言ってもらい、それをもとに会を進めていく。

■進行内容

1. 郵便物の処理について

→何を捨てて、何を残すか、どこに残すか

指定校推薦の書類は置いておく。

パンフレット類の置き場に置く。(しかし生徒はあまり見ないことが多い)

生徒に中を確認させて、大学作成の入試問題集だけは残させて、後は処分。

進路室に、パンフレット類を、エリア別学校別に置くようにしている

2. 進路指導室

→何を置いているか どのような構造になっているか

赤本 大学の問題集 その他各教科の問題集 模試の過去問 など

大学入試問題正解

P C (デジタル教材への対応) 印刷機 (ウェブ出願のため)

コピー機

自習室を兼ねる。

面接の練習のための個室。(面接に際しての注意書きを貼っている)

実際の面接試験の記録を残している。

模試の授受のための空間。

奨学金の書類。

3. ハンディ進路指導室

P D F ・ バーコードを読み込んだら済むので楽。

就職 求人票の管理 形が決まっているのでやりやすい

大 学 指定校推薦の管理も可能になったらしいが精度が低い。

書類の形式も統一されていないので、今年度は様子見。

4. 指定校推薦

→募集方法・選考方法

[指定校推薦の一覧]

→複数の人間でチェックするか、一人で何度もチェックするか、学校によってさまざま。

[1 学期～夏休みの動き]

→「正式」に動くかどうかは学校によってちがう。

7 月くらいから担任団に開示 三者懇談。

8 月～ エントリー、あらかじめ志望理由書を出させたうえで、審査会。

or

9 月～ スタート、1 学期は伏せておいて去年のデータで懇談・相談をおこなう。

5. 若い先生への指導

進路指導部長が高 3 の学年会（若い人間だけではなく全体に対して）に話をしていく

学年会（高 1 高 2 高 3 別々に）で進路指導部長が話をする

経験者が若い先生に（個人的に／その都度）教えていく

新任／初めての高 3 担当に対する研修会をおこなう

6. 進路の仕事はどこまで？

→以下のようなものが挙げられた

- ・非認知能力の研究
- ・非認知能力の前提となる認知能力の測定
- ・コグトレオンライン（東京書籍）
- ・Ai GROW
- ・学びみらい PASS／みらい PASS ジュニア（河合塾）
などのシステムを活用、評価の基準を作っていく
- ・探究の時間
- ・ICT
- ・小論文指導 「AI 添削トレーニング」（Z 会）なども利用

感想

分散会の雰囲気、参加者の反応、運営上の問題点、反省点 その他

少人数だったこともあって、全体的に話しやすい雰囲気が形成された。最初に自己紹介を兼ねて問題意識を共有しあい、そこから話を始めていくという方法によっていい流れが生まれ、そのあとの話がスムーズに展開した。それぞれの学校の事情を知ることができたことは、自校にすぐに反映させることは難しい点もあるが、利用している業者・システムなど参考になった。分科会形式の話し

合いは有意義であり、今後も継続していくことが必要であろう。